

回				
覧				

差別処遇是正要求について説明を行いました

(1月23日拡大窓口交渉)

1月23日に開催された拡大窓口交渉で、昨年12月28日に提出した旧動力炉核燃料開発事業団及び旧核燃料サイクル開発機構から続く差別処遇の是正を求める要求書について、機構当局に趣旨説明を行いました。労組は、3役を含めて出席、機構側は、人事課長、労政課長代理と窓口担当者の3人でした。拡大窓口交渉に委員長が出席するのは異例ですが、趣旨の説明には適任と考え出席しました。

以下にやり取りの概略を示します。

原研労組：今回、特別の要求書を出したのは、これまでも秋闘要求書など、色々なところで要求しているのに、一向にらちがあかないという事が、一つ大きな理由です。それと、すでに退職された方もいますが、色々差別を受けた方の多くが、定年に近くなっているのです。それで、何も改善されず、このまま辞められるというは如何なものかと考えました。もう一つ、今、機構改革と言っていますが、改革のために何が必要か、人それぞれ考えがあるのでしょうが、我々は、これから述べるような差別を行ってきた事が、今の機構の混迷の一つの原因だと考えています。だからこの点を是正されない限り、いくら松浦さんが立派な事を言っても、全く信用できません。仕事をどのように進めるかということについては、「安全第一」以前の問題があるのだと、少なくとも私は、考えています。要求の趣旨を短くいえばそういうことです。

給与の大幅削減特例措置を直ちにやめろ !!!

< 差別が行われていたこと、旧動燃の人事が知らないわけではない! >

労組：それで、どのような差別が行われてきたかという事ですが、旧サイクルの出身ですか。

機構：そうです。

労組：どのようなことが行われてきたか知っているでしょ。知らない程、若すぎるのかな。

機構：そんな若い年齢ではないのですけれども、いづれにしても、私は、承知していない。

労組：労務が知らない訳はない。だって、統合後のことですが、僕がチームリーダーから、電気標準の仕事をやってくれと言われて、出張命令書もできて、課長印も押しもらって、書類をまわしたら、課長が青い顔して来て、「やる訳にいかない」と言うことになりました。人事から怒鳴られたようです。

労組：それって、西川さんが知らない人事なのですか。人事の中にも色々な流れがあって、西川さんの知らないところで粛々といかがわしい事をやっていたという事でしょうか。

機構：どういう事なのか、ちょっと良く分からないです。

労組：みんなが、全て労務とか人事が指示を出していたと言っていますよ。

< 人権が大切だが、それだけではない! >

労組：まず、労働組合ですから、職員の人権を守ることが非常に大事だと思っています。あなた方が、本当はどう思っているかは別にして、否定できないでしょう。先程言いましたように、原子力機構がこれからちゃんとした機関としてやって行くために改革が必要として、この問題をほったらかしにしておいて、改革が先に進むとは思えない。それで、何が問題かという事です。要求書には、書いていませんが、「もんじゅ」やそのほか色々なものが、何故うまくいかないのかです。一つの理由は、元々やっている技術が難しいという事です。それは、今の段階では、誰も否定しないと思います。でも、「もんじゅ」がスタートした時には、そうではない。「あんなもの簡単に終わる」と思っていた人が多かったようです。西村資料から書かれた本、「原子力カムの陰謀」（昨年末の団体交渉で、労務担当理事に差し上げたもの）にも書かれていますが、初めは難しいことがないかのように思っていたようです。だから、適当なやり方、とにかく「いけい

けドンドン」。どこかの製造会社に発注して出来る。出来あがったら、鍵を貰って回して動かす、ターンキー方式という言葉がありますが、それに近い感覚でやってきたのです。ところが、どっこい簡単ではなかった。原子力に係る事はそのようなものだと思います。逆に難しいものでなかったら、原子力機構がやる意味がありません。

＜ 事実素直に向き合わねばならない！ ＞

それで難しいことをやらなければならないとすれば、どうするか。やはり、技術・事実と正面から向き合って、「これがうまく行っていない」とか、あるいは、「ここまでは、上手く行っているとか。ここは失敗して、設計を間違えていた」とか、率直に認識して対応していくことが必要です。けれども、最初の頃のそのようなものを無視する姿勢、「とにかく技術は出来ているので、後はガンガンやるだけだ」といった感覚で進めてきて今に続く間違いがあると思っています。

例えば、再処理工場でいえば、建設当初から、色々な人が、色々な不具合が有る事に気が付いていた。気が付いた不具合を「直して欲しい」と発言したら、要するに仕事を進めるのに邪魔する者だと言って、差別した。あいつらは・・・、色々な言い方があって、「危険分子」だの、「赤組」だの、「共産党」だの、色々と言い方がある訳です。しかし、実際にその不具合を危惧する指摘は、ほとんど当たった訳ではないですか。再処理工場はどれだけうまく行ったのですか。稼働率が、確か2割程度ですか。

「当初はうまく行かなかったが、順調にいくようになった」というものでもないですね。「もんじゅ」は、いわずもがなでしょ。

＜ ものを言えない職員を作っては駄目だ！ ＞

この先どうなるかも分からない難しいことに取り組んでいくときに、仕事と関係なく、こいつはダメだと思ったらバツを付けるとかいう事をやられたら、職員は何か批判的な事が言えなくなる。細かい事も含めて言えなくなる。今回の点検漏れもそうですよね。上の方が「そんな事を気にせず、ドンドン進めるのだ」みたいな事を言ったら、処遇を悪くされたり、いじめられるから、「ちゃんと点検すべきだ」とは言えない。ところが外から指摘され、問題になった訳ですよ。

＜ 自分で考えることが大事だ！ ＞

外部の人が驚いていました。色々取材しているようですが、「もんじゅ」で最初の頃は、『そんな点検なんかは後で良い、そんな事で[点検出来ない]などと言うのではない』と言っていた人が、今度は一転して、『点検をしっかりとやらなければならない』と言っている。それで、驚いているのです。何で、今までやらなくて良いのだと言っていた人が、急に、一人二人でなくみんなして言うのだと。それは共通項があるのです。とにかく、自分で考えて、何かをしっかりとやって行くのには、何が重要だとか、あるいは、これこれ重要でないとか考えるのではなくて、何かこうやれと言われたから、やっているだけなのです。本当に大事な事は何かを考えずに、「突き進めば良いのだ」という発想でしょう。だから、点検点検と言っているのは良いのですが、下手をすれば、それだって定められた形式の点検だけで、もっと大事な事を忘れるかも知れないのです。そのような危うさをはらんでいます。ガバナンスがどうのこうのはあるかも知れませんが、そもそもそのようなコントロールの仕方を間違えていたという事です。

---- 以下は次の機会に紹介します。

中央委員会

中央委員会を下記のように行います。中央委員の方は万象お繰り合わせの上、ご出席願います。

記

日時：2014年2月6日（木）18:30～

場所：組合事務所

議題： 最近の状況報告、四半期財政報告、差別処遇是正要求書、放射線業務手当について、その他